

H.U.グループホールディングス株式会社 2022年3月期上期決算説明会 主な質疑応答

[日 時] 2021年11月9日(火) 16:00~17:00

Q-1

- 現在、新規感染者数が日々減少しているが、新型コロナウイルスに関わる下期予想の前提について改めて教えてほしい。

A-1

- PCR検査数は2,000-3,000件/日実施しているが、感染者数がゼロになったわけではないのでこの水準が継続すると見込んでいる。
- また、海外との交流を再開させていく中で、空港検疫所での検査数は増えていく可能性はあるものの、現段階では大きく伸びる計画にはなっていない。

Q-2

- 通期業績予想の修正について、IVDは上振れ気味である一方、新セントラルラボの立ち上げが緩やかになることによって売上もしくは利益面でなにかネガティブな要素があるのか？また、今期にどのように影響するのか？

A-2

- 1月4日からの段階的な稼働により、八王子ラボとの並行稼働による人件費などのコストが発生する。
- 一方、第1期のフル稼働が3月になることによって、発生を見込んでいたコストが一部来期にずれることがある。
- 上記に加えて、IVDの上振れ分等を考慮した結果、下期予想を据え置いている。

Q-3

- 新セントラルラボ関連費用について、期初の説明では上期20億円、下期60億円の想定だったが、この進捗および見込みに変更はあるか？また、費用の一部が来期へ期ずれすることによって、23年3月期における30億円のコスト増という見通しに変更はないのか？

A-3

- 進捗はおおむね計画通りであり、期初の見込みから大きく変わることはない。
- 23年3月期についても大きな影響はないため、全体を見直すレベルではない。

Q-4

- PCR検査受託数がQonQで大きく変わっていないにも関わらず、LTS事業の売上が伸びている理由は新型コロナウイルス関連検査以外によるものか？

A-4

- 大規模イベントでの検査受託に加えて、一般検査が2019年度比で増加してきていることによるもの。

Q-5

- 大規模イベントによる貢献や、がんゲノム項目の売上規模感は？

A-5

- 大規模イベントについては個別契約のため、コメントを控えさせていただく。
- がんゲノム項目は、コロナ禍でも必要な検査ということで着実に伸長している。

Q-6

- 新型コロナウイルス関連以外の検査はどの程度回復してきているか？

A-6

- 特殊検査は厳しい状況だが、一般検査は2019年度比で伸長している。

Q-7

- LTS事業の院内検査の売上がQonQで大きく伸長している理由は？

A-7

- 空港検疫所での検査数増加による貢献が大きい。
- また、既存顧客からの売上も増加してきている。

Q-8

- IVDの国内ルミパルス売上が大きく伸びていないように見える一方、エスプラインの売上は大きく伸びている。この背景について教えてほしい。

A-8

- ルミパルスの高感度抗原定量検査は安定的に成長している。
- エスプラインが足元で大きく伸びたのは地方自治体からの需要によるもの。

Q-9

- 抗原簡易キットのOTC販売も始まったが、エスプラインの需要は今後も続くのか？

A-9

- 地方自治体等からの需要について、見通すことは困難である。
- OTC販売については、少しずつオーダーをいただいている状況であり、下期に向けて販売拡大を期待しており、一定の需要が続くと推測している。

Q-10

- アツルハイマー病関連検査試薬についての期待値は？

A-10

- 現段階では限定的であり、大きなビジネスには至っていない。
- 将来的には新しい薬や試薬が浸透・承認されていくことによって拡大していく可能性はある。

Q-11

- 直近の報道で、空港検疫所でワクチンパスポートによって検査を不要とすることや、無症状者への公費負担による PCR 検査の実施などが取り上げられているが、これらについて何かコメントはあるか？

A-11

- ワクチンパスポートについては、国からはっきりとした指針が出たわけではない。加えて、すぐに検査を不要とすることはリスクが大きいと考えられるため、当面は今の検査体制が続くと考えている。
- 無症状者への PCR 検査の実施については、仕組みが決まっていないので見通しはできないものの、仮に当社が受託すればプラスに働くことは間違いない。

Q-12

- 世界的に半導体などの部材供給が不足しているが、御社への影響はあるか？

A-12

- ルミパルスで半導体等を使用しているが、在庫もあるため短期的には影響は小さい。
- ただし、この状況が続けば影響が出てくる可能性もある。

Q-13

- 10月21日にリリースしている、新たなデジタルヘルス証明の実現に向けた共同実証についてはいつ頃から業績貢献が考えられるか？

A-13

- まだ実証段階であり、短期的な影響はない。